

基盤共同研究 海域・海村の景観史に関する総合的研究

期間：2015 年～

〔所員〕 安室 知 内田青蔵 大川 啓 小熊 誠 小野寺淳 木下直之 昆 政明
久留島典子 後田多敦 周 星 須崎文代 角南聡一郎 関口博巨 泉水英計
高城 玲 平井 誠 平山 昇 廣田律子 前田禎彦 丸山泰明 山本志乃

〔客員研究員〕 橋村 修 橋本道範 松田睦彦

〔研究協力者〕 太田原潤 小野寺佑紀 丹羽英二（歴史民俗資料科学研究科博士後期課程）

2021 年度 活動報告

安室 知

〔研究目的〕

本研究所はその発足の早い段階から漁業制度資料等による海域・海民史の研究に取り組み、これまでも能登半島や瀬戸内海の二神島といった地域で多くの研究蓄積をなしてきた。また近年は、国際常民文化研究機構のもと「海域・海民史の総合的研究」として3つの共同研究がおこなわれた。本共同研究はそうした研究蓄積を継承し発展させるものとして位置づけられる。

海は水産物だけでなくさまざまな資源を生み出す。そして、その開発・利用に当たっては、人・物・情報の行き来を促し、その営みを通して社会知や民俗知が膨大に集積される空間となっている。反面、負の記憶として、海域の利用をめぐる個人や村のレベルから国際的な問題までさまざまな対立や紛争を生んできたし、また海という大自然とたえず対峙する海村では大きな災害や事故が歴史的に繰り返されてきた。そうした海域海村の歴史文化について、絵図として残された景観を手がかりに、本研究所の人的資源を活用し学際的に研究することが本共同研究の主な目的となる。

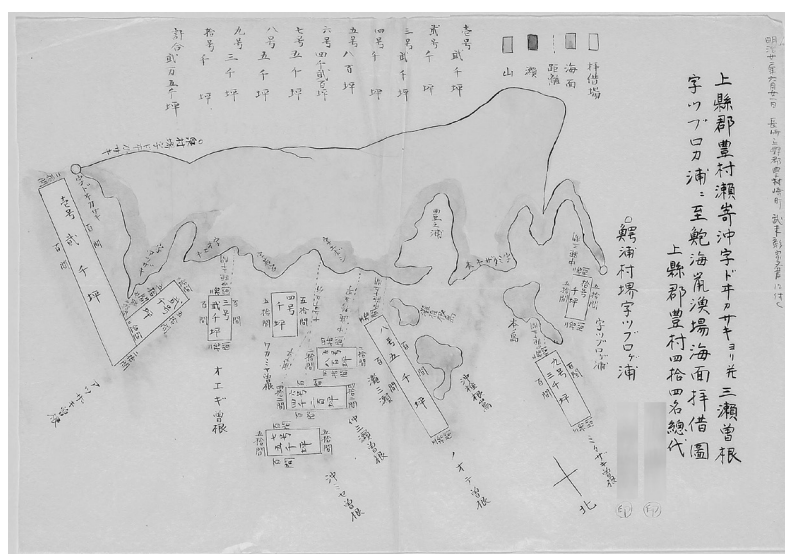


写真 1 対馬豊村（現対馬市）沿岸の鮑・海鼠漁場図（常民研所蔵）

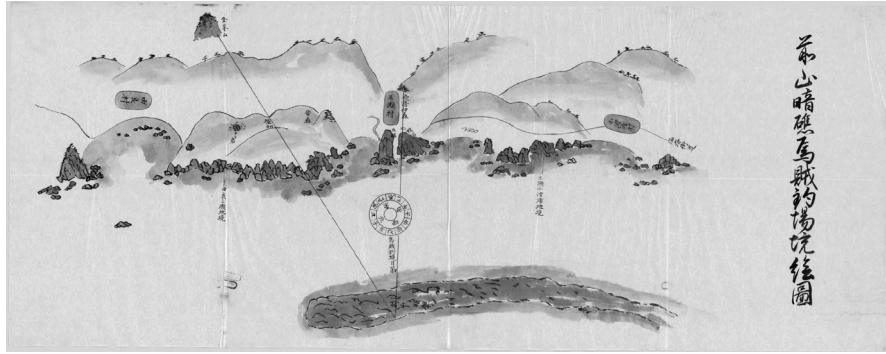


写真2 山形県三瀬村（現鶴岡市）沿岸の烏賊釣場の境を示したヤマアテ絵図（常民研所蔵）

[2021 年度の主な活動]

2021 年度は、昨年度に引き続き、コロナ禍の影響で、通常の研究活動となる共同調査はおこなわれなかった。

そのため、本年度の活動としては、共同研究の成果物とすることを予定している『漁場図集成』（仮）および「漁場図データベース」（仮）の作成に向けて、基礎的な資料の整理作業をおこなった。またその目的で、研究代表者と研究協力者を中心とした研究会（非公開）を 2 回おこなった。

なお、『漁場図集成』（仮）と「漁場図データベース」（仮）の作成に向けては、その財源を確保するため、100 周年記念事業に位置づけ来年度から 3 年計画で特別予算を要求することとした。

○第 1 回研究会（非公開）

日時：2021 年 12 月 2 日 13 時 30 分から 15 時 30 分

場所：横浜キャンパス 9-212 室

参加者：安室、小野寺、太田原、丹羽

内容：小野寺佑紀・太田原潤（研究協力者）両氏から、漁場図の整理作業について説明を受け、現時点までの達成状況と今後の課題について参加者全員で話し合った。なお、本年度より、丹羽英二（歴史民俗資料学研究科博士後期課程）氏には研究協力者として本共同研究に参加してもらっている。

○第 2 回研究会（非公開）

日時：2022 年 3 月 10 日 10 時 00 分から 12 時 00 分

場所：常民研

参加者：安室、小野寺、太田原、丹羽

内容：小野寺佑紀（研究協力者）氏から、別置漁場図と筆写稿本との照合作業に関して、2022 年 3 月時点における進捗状況が報告される。その報告を受け、今後の作業の進め方について、参加者全員で話し合うと共に、今後の大まかなスケジュールと役割分担について確認した。なお、次年度からは、小野寺佑紀氏を特別研究員として、また有馬絵美子（歴史民俗資料学研究科博士後期課程）氏には研究協力者として新たに本共同研究に参加してもらうこととした。

■ 2021 年度の活動

○ 2021 年度第 1 回研究会 2021 年 12 月 2 日 横浜キャンパス 9-212 室 安室知・小野寺佑紀・太田原潤・丹羽英二

○ 第 2 回研究会 2022 年 3 月 10 日 日本常民文化研究所 安室知・小野寺佑紀・太田原潤・丹羽英二

○ 『歴史と民俗』38 神奈川大学日本常民文化研究所論集 38 特集「景観の総合資料学」（2022 年 2 月 18 日）にて成果発表 安室知・松田睦彦・恵谷浩子・橋本道範・小野寺佑紀・太田原潤

○ 漁場図資料の整理 小野寺佑紀・太田原潤・丹羽英二